

発行日 令和4年3月15日

発行者 島根県保育協議会

編集者 総務広報委員会

第66回中国地区保育研究大会

記念講演

「育てること」をめぐる思想 — 積み木、食べ物、子どもの園 —

講師：京都大学 人文科学研究所

准教授 藤原 辰史 氏

世界初のキンダーガルデンの創始者フレーベルの思想と恩物の一つである、積み木についての話がありました。

積み木は分解の思想で、組み立て崩れてまた別のものになってしまう。そして壊れていくときのカラカラという音は分解する時の音で心に響き、壊していくことも楽しく壊れたものを別のものに変えるという変態は、宇宙の摂理です。積み木の特徴は、木の破片に過ぎないものに無限の想像力を見出せることであるが、増やし過ぎるとイメージのわき起こりを制限してしまいます。最近のアニメ等は作り手の表現が非常に豊かで、子どもたちの想像力を発動する前に抑え込んでいるのではないかとされています。

キンダーガルデンの特徴として、積み木と自給自足のできる菜園をあげられました。

植物と子どもが共に育ち、自分も植物と同じように生物であり、その植物の中に食べられるものがあることを知ることは重要です。

また、大人が特権的なところで、管理教育をするのではなく、大人も子どもも、ともに育つ「共育」をしていることが特徴です。

フレーベルを批判しつつ引き継いで教育哲学に発展させたデュイは食べることに、料理を教育の中心にし、家庭科を重要な教科としました。料理に使用するすべての素材は、土から生じ、光、水の影響によって育てられ、地域の様々な姿を示しており、菜園から、より大きな世界へ広がるこの関連をとおして、子どもたちは自然の諸々の科学への研究に導かれます。料理もまた同様であり、日常の経験に関係づけられます。このようにして家庭科は生活と学問をつなげています。

給食は、教育の中で大切に、給食は自然とのふれあいの場所、総合的な学問の場所、人との会話の場所、緊張がほぐれる場所、家庭の貧困が問題にならない場所、災害時の炊き出しとなる場所です。給食を、作っているところを見ることは、重要で総合的な学問に導いていきます。

育児・教育・恋愛・研究などは「無目的性」「弱目的性」にあふれていたはずで、たとえば、砂場は知能を高めるために必要なのではない。砂を触って何かを作る行為に没頭したい、ここに来る友達の顔を見たい、砂と水を触りたい、転んでも痛くない、涙も涎も吸う、いろんな弱い目的や機能の集積地点であり、だからこそ、砂場は保育園や幼稚園に必要なのだと思います。現在は書類審査のために無理矢理明確すぎる大きな目標を立てられ、評価をくだされます。弱い目的の集積としての教育の場であってほしいです。

まとめとして・子どもを作るのではなく、解く。良い子を作るのではなく、自分自身を緊張から世界に解いていく。

・子どもを導くのではなく、思いっきり迷わせる。導くことは一方では大切だが、もう一方では重要なことを忘れがちで、迷わせて迷っているうちに発見に驚くことがあるが、導かれることによって驚きが減っていくので、安心して迷わせてあげる。

・子どもを商品化するのではなく、子どもを商品化から守る。就職活動時に、自分に値札を貼って企業にアピールするように、商品化を進めるのではなく人間性を守ることが教育者の義務である。

積み木、こどもの園（キンダーガルデン）食べ物から育てるということは、もう一度教育者の原点はどこにあったのかを見つめ直すことにもつながって来ると思います。という講演でした。



中国地区保育研究大会

<オンライン開催>

主題「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」

第1分科会

提案県 鳥取県（夜見保育園）

助言者 島根大学／肥後 功一 氏

配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて

「配慮を必要とする子とはどんな子か。私はすべての子が配慮を必要とする子であると思う。」第1分科会提案者の佐藤園長先生の子どもたち全員を包む言葉が胸に響きました。そして「すべての子どもたちが自分らしく生きていける社会になることを願う」と締めくくられました。

日々保育が展開され、たくさんの場面が繰り広げられます。子どもたち一人一人のドラマがそこにあります。それに寄り添える私たち保育者は自身の人生を子どもたちに彩ってもらっているとんでもない過言ではありません。では、どうしたら子どもたちに保育でお返しができるのでしょうか。肥後先生は助言の中で「子どもの思いを中心に置き、時間をかけてじっくりと関わる、肯定的な思いを伝えていく保育」と示してくださいました。今一度保育の基本に立ち帰ることができました。

今日も子どもたちは、おかれた状況の中で精いっぱい大きくなろうとしています。「配慮が必要な子ども」を「すべての子ども」ととらえるならば、その背景には、発達・国籍・生活状況・家族関係と様々浮かびます。保育所だけでは解決できない事柄も多くあります。だからこそ、保護者の信頼を糧に、地域社会と連携して子どもたちの成長を保障する必要があります。佐藤先生が大事にされている「よりよく生きようとしている子どもの願い」を受け止め、『一人一人の「今伸びようとしている力」を見るのが重要』と肥後先生が言われたことを心に子どもたちの大切な“今”を丁寧に刻んでいきたいと強く思わせていただいた時間でした。

かのあし／双葉保育所／朋澤 公香

第2分科会

提案県 岡山県（赤磐市立赤坂ひまわりこども園）
（赤磐市立佐伯北保育園）

助言者 島根大学／肥後 功一 氏

公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割

この度は、7園合同で「地域社会での役割」について、共同研究・研修をされました。まず、どのような課題があるのかを収集するため、地域の方々の意識調査を実施され、その結果から課題を見つけカンファレンスを行い、また、その園で試みるという、循環型の研修サイクルを確立して実践しておられました。地域の方々の声を大切にしながら、協働を生み出された研究になっていました。

その報告を受けて、島根大学の肥後先生の講評・講義では2点のコントラスト（対比）についてまず話をされました。

1つ目は、科学（サイエンス）と非科学（空想・想像・ファンタジー）のコントラストでした。「このカエル何だろう」というエピソードから、科学的なこと（図鑑やネットで調べる、自然保護センターの方に話を聞く、カエルを飼育する）と、非科学的なこと（カエルさんに体操を見てもらおう、一緒にお昼寝しよう）のバランスが大事であると話されました。幼児期の学びには科学的なことだけでなく、非科学的な空想や想像、ファンタジーが育つように保育の中で取り入れいくことも保育士の役割であると学びました。

2つ目は、デジタルとアナログのコントラストについてでした。デジタルなこと（ネットで調べる、ZOOMを利用して交流活動を行う）と、アナログなこと（図鑑で調べる、手紙を書く、写真を掲示し地域の人を知る）が存在すると話されました。主に視聴覚を使って部分や断片をまるで全体のように錯覚してしまうデジタルと、自分の身体を使ったりつながりを体感したりしながら全体像を捉えていくアナログとでは大きな違いがあります。アナログの力が部分から全体を組み立て、全体像を想像することができるようになり、デジタルの力も育んでいくことを話されました。

最後に、“地域の人の思い”を理解し、地域の公共施設として共に学び、交流を深めることで協働へとつながりが深まっていくそうです。子どもたちは経験しながら物事を学び、全体の段取りや手順を分かるようになるので、地域の中で生活者としての土台を作り、一生自分らしく、楽しく生きていく力を地域と共に育てていくことが大切であるとまとめられました。

松江／意東保育園／津森 優子

第3分科会

提案県 島根県（令和2年度総務広報委員会）

外国にルーツを持つ子どもの受け入れについての保育の現状について

総務広報委員会では、2018年に出雲市が外国人の子どもの増加率が最も高いと取り上げられたことから外国ルーツの子どもの入園が増えてくると予測し、出雲市での受け入れ方法や課題を共有し学ばせてもらう取り組みについて発表されました。

出雲市3園と出雲市役所こども未来部からお話を伺い、2021年度の現状は新型コロナウイルス感染症の影響もあり在籍数は減少傾向ですが国籍数に変化はないそうです。課題としては「働き方と国民性の違い」「言葉に対する困難さ」「宗教上の除去食」をあげられ、国によるルールや価値観の違い、意思疎通の難しさがあると話されました。日本は生活全般において伝達・話す・読む・聞く・理解・読解など言葉の役割が大きいです。そのため会話や長文の読解力を養えるよう、児童書の読み聞かせを行っている話もありました。日常的に行っている読み聞かせも言葉を意識して行うことで言葉の獲得につながると感じました。また、通訳者の配置や様々なツール活用が重要になってくるとともに、地域の中に理解者を増やすことも必要であると話され、「しまね国際センター」の紹介もありました。

最後に、ルーツがどこであっても一人ひとりの違いを認め、一人ひとりの課題に対応し、一人ひとりに向き合う姿勢はルーツに関係なく全ての子どもに対する保育の基本だと話されました。課題はありますが、保育の基本を忘れず対応していくことが大切だと感じました。

江津／さくらこども園／福富 由希子

こんにちは！ しまね国際センターです

しまね国際センターは、多文化共生を推進しています。
お気軽にご相談ください！

①コミュニティ通訳ボランティア

ボランティアを派遣し、通訳します。（要予約、利用無料）

②出前研修 こんなテーマでお話します！

- ・園児向け外国文化紹介
 - ・外国人保護者への支援について（※日本で子育て経験のある外国人スタッフがお話します）
 - ・外国人保護者に伝わりやすい話し方講座「やさしい日本語」
- ※講師派遣料、交通費が必要です。

(公財)しまね国際センター

<本所>

松江市東津田町369-1
Tel 0855-28-7990
Mail admin@sic-info.org
https://www.sic-info.org/

<西部支所>

浜田市野原町2433-2 島根県立大学内
Tel 0855-28-7990
Mail hamada@sic-info.org

WEB



こんなとき、ご利用ください！

- ☑外国人保護者とのコミュニケーションがうまく取れない
- ☑子どもたちに外国の文化を体験させたい
- ☑外国にルーツのある子どもの国の文化について知りたい
- ☑外国人園児・保護者への支援で悩んでいる など

③しまね多文化共生総合相談 ワンストップセンター

※園から外国人保護者の方へ連絡する際に、電話で通訳します。
※外国人の暮らしに関する相談を受けています。
（予約不要、利用無料）

他にも様々なサービスがあります。
お気軽にご相談・お問合せください！

第66回中国地区保育研究大会のアンケートから皆さんから寄せられた感想の一部を紹介します。

★記念講演

思いっきり迷わせるということ。そうだなー今の時代便利になったけど、ショートカットが多いなと感じました。楽しく迷う、迷った先に面白いことがあるかもしれない。忘れかけていたことを思い出させてもらいました。子どもたちとの活動でも、すぐ答えを出すのではなく取り組み方も考えていきたいと思います。

★第2分科会

公立・私立という区別なく、同じ子どもを育てるという目的で、様々な行政機関・地域と連携をとるようになる為にはどのようにすれば良いか考え、園の方から外部にアプローチしていくことが必要なのではないかと思います。職員に発信していきたいと思いました。

★第1分科会

「肯定的に子どもを見る」「保護者も肯定的な思いを子どもに伝える」ということは配慮が必要な子どもだけではなく、全ての子どもにたいして大切なことだと思うので意識して保育・教育に取り組みたいと思いました。

★第3分会

外国籍の子どもが入園したら、面接の際に色々配慮事項を伝えておくことが大切だと分かりました。食文化の違い、母国語で話す上で、保育士と子どものやり取り、保護者と保育士のやり取りは非常に難しいことだなと感じました。なので、この研修を基に配慮が必要な家庭においては丁寧な関わりをしなければならない。慎重にこれからもいきたい。

令和3年秋の叙勲 「旭日双光章」を中山哲夫副会長が受章されました。

受賞に際して、皆様からご鄭重なるご祝意とご激励を賜り厚く御礼申し上げます。この度は自治功労叙勲ですので、地方議会議員をしていただいた関係によるものです。思い起こせば昭和54年、27歳で松江市議会議員となり当時は独身でしたので血気盛ん進取の志高き生意気な青年だったと思います。議員を引退して既に四半世紀過ぎました。保育園長職も34年目になりました。古希を無事に迎えた身としては楽隠居はしたいしボケるのは嫌だし悩ましいところです。

中山哲夫氏 略歴

昭和54年5月～平成元年8月 松江市議会議員
 平成元年5月～平成元年8月 松江市議会副議長
 平成元年8月～平成3年4月 島根県議会議員
 平成7年4月～平成11年4月 島根県議会議員
 平成17年6月～平成21年6月 島根県保育協議会副会長
 平成23年6月～平成27年6月 島根県保育協議会会長
 平成27年6月～令和3年7月 島根県保育協議会顧問
 令和元年4月～令和3年3月 全国保育協議会監査委員
 令和3年7月～現在 島根県保育協議会副会長

令和4年度 大会・研修会予定（島根県保育協議会）

大会・研修会名	開催日	開催地・開催方法	講師
総会	6/30（木）	松江市「くにびきメッセ小ホール」	島根大学大学院教育学研究科〔教職大学院〕教授 原広治氏
新任職員研修会	7/21（木）	出雲市「ニューウェルシティ出雲」	めばえ保育園 園長 田中文仁氏 あすなろ第2保育園 園長 竹内寛和氏
保育士・保育教諭スキルアップ研修会	8/22（月）	松江市「いきいきプラザ島根」 （コロナ感染状況によりWEBに変更する場合があります）	山陰こどものとも社 代表 末宗辰彦氏
食育推進研修会	8月以降	動画配信	株式会社 Graine 代表 大阪総合保育大学乳児保育学科 非常勤講師 伴亜紀氏
主任保育士・主幹保育教諭研修会	9/7（水）	WEB（ライブ配信）	一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見裕幸氏
施設長研修会	11月又は12月予定	動画配信	島根大学 理事/副学長 肥後功一氏
保育者研修会	令和5年1月予定	出雲市「朱鷺会館」（予定）	名古屋市けやきの木保育園 園長 平松知子氏
隠岐地区研修会	調整中	調整中	調整中
第63回島根県保育研究大会	12/17（土）	大田市「大田市民会館」	全体講評者： 島根大学理事/副学長 肥後功一氏
第67回中国地区保育研究大会	7/14（木）～15（金）	山口県下関市	日本体育大学 教授 野井真吾氏
第65回全国保育研究大会	10/20（木）～21（金）	山形県山形市	調整中
第55回全国保育士会研究大会	11/24（木）～25（金）	奈良県奈良市	調整中
働き方改革セミナー（島根県受託事業）	調整中	調整中	調整中

令和4年度 福祉従事者研修・保育関連研修予定（島根県福祉人材センター）

研修会名	会場	開催日	講師
保育士等キャリアアップ研修【マネジメント】	松江	4/18（月）～20（水）	女性ライフサイクル研究所フェリアン 津村薫氏 森崎和代氏
	浜田	5/11（水）～13（金）	
	出雲	6/21（火）～23（木）	
保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】	浜田	7/4（月）～6（水）	島根県立大学保育教育学科 小山優子氏 矢島毅昌氏 幼児教育センター 講師
	松江	7/25（月）～27（水）	
保育士等キャリアアップ研修【保育実践】	浜田	8/3（水）～5（金）	NPO 法人あしづえ 有田美由樹氏 田中小百合氏 島根県立大学松江キャンパス 矢島毅昌氏 秦昌子氏 岩田裕子氏 浜田市立長浜幼稚園 長尾佳保氏 松江市立城東保育所 福頼美恵子氏
	松江	8/29（月）～31（水）	
保育士等キャリアアップ研修【障がい児保育】	松江	8/17（水）～19（金）	島根大学大学院教育学研究科〔教職大学院〕 原広治氏 大阪健康福祉短期大学保育幼児教育学科 舟越美幸氏 出雲市立直江保育所 江角祥子氏
	浜田	9/12（月）～14（水）	
	出雲	9/26（月）～28（水）	
保育士等キャリアアップ研修【保健衛生・安全対策】	浜田	10/11（火）～13（木）	島根県立大学保育教育学科 前林英貴氏 日本赤十字社島根県支部 講師
	松江	10/18（火）～20（木）	
	出雲	11/29（火）～12/1（木）	
新任保育士・保育教諭研修	浜田	10/31（月）～11/2（水）	島根大学大学院教育学研究科〔教職大学院〕 原広治氏 島根県幼児教育センター 講師 女性ライフサイクル研究所フェリアン 津村薫氏 森崎和代氏
	松江	11/15（火）～17（木）	
保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】	—	eラーニング	—
保育士等キャリアアップ研修【食育・アレルギー対応】	—	eラーニング	—
保育士等キャリアアップ研修【保護者支援・子育て支援】	—	eラーニング	—

編集後記

新型コロナウイルスがまん延し、不安や心配が絶えない日々。当たり前になっていたことができなくなり、日常生活において様々な制限や我慢をしなくてはならなくなりました。各所では感染症防止対策の徹底はもちろんのこと、行事の見直しや安全・安心な環境作りに苦慮されていることと思います。こんな時だからこそピンチをチャンスに変え、保育を見つめ直し、みんなで知恵を出し合い、語り合い、心をつなぎチームの力を発揮して取り組んでいきましょう。